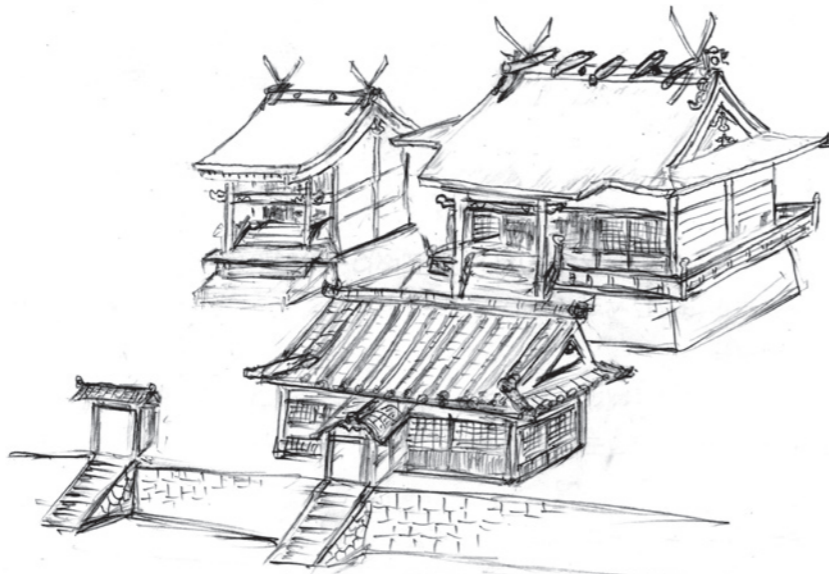




高梁川嘉永洪水絵図部分（拜殿は鶴崎神社側のみ）

饌所を併設する特異な建築となっている。近隣の双殿造りの神社は、箕島神社（岡山市南区箕島）、御前神社（岡山市南区妹尾）、素盞鳴神社（岡山市南区飽浦）などがある。棟札によると明治二十八年に拜殿を始めとする社殿の大改築が行われたようである。明治二十八年以前の拜殿は、嘉永三年（1850）の「高梁川嘉永洪水絵図」に描かれている神社の様子を見ると、双殿作りではなく、鶴崎神社のみに置かれ、八幡神社は神門だけだったようである。また、都窪郡誌にも明治二十七年「梁

行二間、桁行五間であったものを、梁行三間、桁行八間に築造、八幡神社の幣拝殿はそれまで無かったものを築造」とある事から、この年から規模を拡大し、両社兼用の双殿造りの拜殿となったようである。当時の拜殿は、土間と板間となっており、昭和三十年に祭典時の参列場所が狭隘につき、土間部分を半間畳敷きに改造した。また、昭和三十九年には建具を設置した。

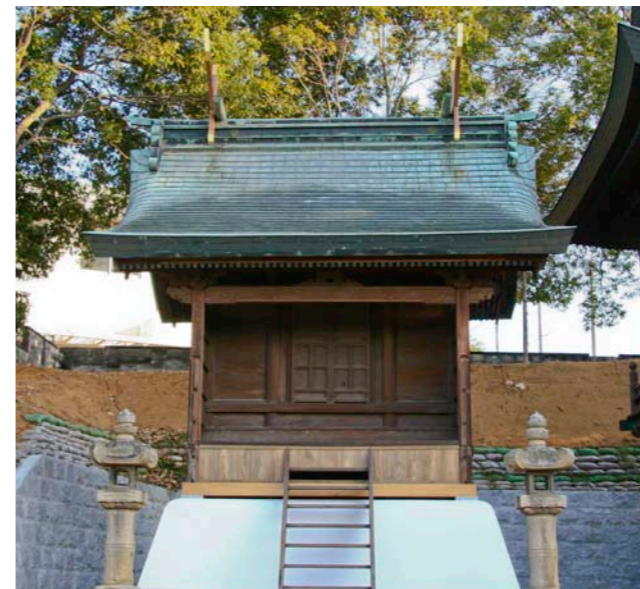


明治28年以前の拜殿予想図（八幡神社は神門のみ）

拜殿に付属して、座敷二間と神饌所、受付がある。三畳の座敷は神職控室と書かれており、祭典時に神職が更衣等に使用していた。また、八畳の座敷は貴賓室と書かれており、明治から終戦までの国家管理時代に、大祭を奉仕又は参列する猷幣使を始めとする来賓の休憩室となっていた。終戦後は役員会等の会議にも使用していたようである。建築様式は長屋造りで、内部に鴨居があり四



拜殿内部（土間と座敷30.5畳）



流れ造りの本殿

八幡神社本殿 鶴崎神社本殿と共に、檜皮葺きの屋根の葺き替えや修理を行っており、昭和四十六年鶴崎神社本殿の屋根葺き替え時に、屋根を銅板に変更して葺き替えた。明治二十七年には、一間七合後方へ移築している。建築様式は流れ造りで、後ろの屋根に対して、全面の屋根を大きく流してある。建坪は六、四八坪。奥行きに対し、間口を広くとっており、特異な様式となっている。また、前面左右に保護用の板垣を取り付けているため、容姿が判然としない。平成十六年の台風により千木が落下したが、平成十九年新たに取り付けられた。

はちまんじんじゃほんでんこまいぬ  
八幡神社本殿狛犬

本殿内左右に一对設置されており、左右とも木製で彩色が施されている。漆塗りの台の裏に制作年等が次のように墨書されている。

天保十五（1844）甲辰四月 詔 八月下ル  
八幡宮御御臺  
寺方願主 観音寺・薬師院・千光寺・願福寺  
早島家中近藤金助該敦一男 帯江前心鏡寺  
攝譽惣長 岡惣兵衛元善二男 妙忍寺十四世  
凌雲日雄 妙法寺  
肝前火本願 太田丹後源宗喬  
太田但馬源直養  
細工人 京都御幸町四条下ル前 山本茂助



へいはいでん  
幣拝殿

拜殿は、神を祭祀し礼拝を行うための建物で、本殿の前面に配置されるのが一般的である。本殿が神座であるのに対して人が神に祭や祈願などを行う場所である。当社の拜殿は、「双殿造り」と呼ばれ、二つの本殿を一つの拜殿でつないでおり、座敷や神



双殿造りの拜殿正面